

KOBE YMCA NEWS



神戸青年 No.635
2015.3 March

発行所 日本YMCA同盟 東京都新宿区本塩町7
THE YMCA神戸版 発行人/水野 雄二 編集人/田村 光
神戸YMCA 〒650-0001 神戸市中央区加納町2-7-15
TEL. 078-241-7201 FAX. 078-241-7479
URL http://www.kobeymca.org 印刷/わかばやし印刷

震災Y Yフォーラム報告

2015年1月17日(土)に神戸栄光教会にて「共にいたみ、希望に生きる」をテーマに震災Y Yフォーラムがおこなわれました。今年で阪神淡路大震災から20年がたちました。開会礼拝で今なお苦しみのなかにおられる方々のことを覚え、震災当時の映像で過去を振り返り、フォーラムが始められました。日本YMCA同盟東山荘職員で前神戸YMCA職員でもあります佐久間眞人さんをお招きし、阪神大震災当時の神戸YMCAの支援活動について講話をしていただきました。佐久間さんは主に被害の大きかった長田での支援活動で活躍されました。震災時に佐久間さんがつけておられた日記は衝撃的な内容で震災を経験していない若い参加者からはじめて震災をリアルに感じたという声がありました。災害の支援活動では人と人とを繋げることが大事で、どれだけ自分が人と繋がっているか、どれだけ引き出しを持っているかが鍵となるので日常を丁寧生きていくことの重要性を話されました。ユースリーダー発表では「ユースからの問い」をテーマに3名のユースリーダーが発表をしていただきました。東日本大震災復興支援ボランティアリーダー会の大原萌さんは「東日本大震災復興支援 私たちができなかったこと」と題し、4年間休まず月1回の街頭募金の実施、福島の子どもの招待キャンプなどのプログラムを継続できたこと、もっと周りを巻き込みたかったこと、これからは新たな出会いと繋がりを大切に、新たなYMCAをつくっていきたくて語っていただきました。阪神淡路震災の翌日に生まれた三宮リーダー会の家田夏海さんは震災の翌日に生まれたことにより自分の生きる意味を問う中でYMCAのボランティアと出会い大切にすべきことを伝えていくのが私の使命と気づいたこと、同じく三宮リーダー会の亀井友理奈さんは人と人、人と自然の関係の中で人間であることの責任を、プログラムを通して育んでいきたいと発表してくださいました。様々な困難にも屈することなく、より良い社会をつくっていくとするユースリーダーの姿には多くの共感と感動がありました。



佐久間さんの講話、ユースリーダーの発表の後には参加者の皆さんでわかち合いの時を持ちました。集まった多世代の方々がそれぞれの観点で講話を聞いて感じたこと、震災の経験談などを語り合い、今後おこりうる災害にむけて私たちが大切にすべきことをそれぞれのグループで1枚の紙に表現しました。グループからでてきた言葉と共に、閉会礼拝をおこない、最後は参加した皆さんが困難を乗り越えて前に進んでいこうと希望をもって震災Y Yフォーラムを終えました。

総主事交代のお知らせ

水野雄二が13年間に渡り総主事及び公益財団法人専務理事、学校法人理事長、社会福祉法人理事長を務めてまいりましたが、3月31日を以って退任し、4月1日付で、井上真二が交代で就任します。

今井鎮雄名誉顧問のお別れ会

昨年11月3日に召天された今井鎮雄名誉顧問のお別れ会が、神戸市内のホテルでおこなわれました。今井顧問は神戸YMCA第6代総主事として1960年代から80年代までの21年間、神戸YMCA発展の基礎を築かれました。また、YMCAのみならず多くの社会福祉運動を支えて、神戸の発展に貢献されてきました。このお別れ会では、生前に関わられた多くの方々が集り、祈りをあわせることができました。お別れ会は、発起人代表・武田建氏のご挨拶にはじまり、関係者からメッセージや献花が行われました。今井顧問が支えてこられた「いのちの電話」「PHD」等の団体に加えて、神戸YMCAのパートナーであるシアトル(米国)・チェンマイ(タイ)・高雄(台湾)の各YMCAからも参列され、今井顧問の生前を偲びあう会となりました。この場をお借りし、海外YMCAから今井顧問に向けての言葉を紹介させていただきます。



シアトルYからのメッセージ

今井氏にはじめて出会ったのは、1981年Seattle-Kobe YMCA youth exchange programの引率ボランティアとして奉仕したときでした。彼は、私たちをあたたく迎入れてくれました。その後、多忙な業務の間をぬって、神戸で、そしてシアトルで何度もお会いしました。とてもうれしいことに、私たちの息子の結婚式に、ハワイまで来てくださいました。今井氏はさまざまな面で私たちに啓発してくださいました。今井氏ともうお会いできないことが、残念でなりません。 Don and Sue Bird/Volunteers of Seattle YMCA

チェンマイYからのメッセージ

Kantakalung家を代表して、故今井鎮雄様のご逝去に深く哀悼の意を表します。40年以上前に私たちはチェンマイで今井さんと出会いました。それ以来今井さんとご家族はチェンマイYMCAを訪ねるたびに、私たちに訪ねてくださいました。今井さんは、こころやさしいすばらしい方でした。地域社会の中で、またその活動を通して、いかに敬意をうけてきたのか、とてもよく理解しています。多くの人たちを支えることで、社会へ貢献してきました。私たちはとても光栄なことに、今井さんと出会い、ともに活動することができました。これからも、今井さんのことを決して忘れることはありません。神様!どうか彼の魂が平安でありますように。そして、彼を失い、悲しみにくれる人たちを、励ましてください。 With warm heartfelt sympathy/Yuvadee Kantakalung & Family

高雄Yからのメッセージ

ちょうど1年前、2014年1月27日に、台湾高雄の自宅に今井氏をお迎えしました。妻と私は、はるばる神戸からこられた大切な友人を迎え、幸せな時間をすごすことができました。それが彼の最後の海外訪問でした。今日は私と妻と二人で、高雄YMCAを代表して彼の追悼式に出席させていただきます。1970年にはじめて今井氏と出会ったときのことを、はっきりと覚えています。日本YMCA同盟に招聘され、いくつかのYMCAを訪問しました。神戸YMCAはその一つでした。1週間の滞中でプログラムを見学し、スタッフと出会いました。その時に今井さんから多くのことを学びました。活動に取り組む態度、信仰心、そしてプロとしてのあり方を学び、大いに影響を受けました。それ以来、彼を何度も訪ね、助言をもとめました。その後、今井氏を師と仰ぐようになったのです。高雄YMCAと神戸YMCAは1983年4月17日にブラザーYMCAの締結をしました。当時、今井氏は30数名の委員、ワイズメン、を引率されてきました。それ以来、40年以上にわたり、両YMCAで、多くの交流プログラムを行ってきました。神戸YMCAは高雄YMCAを弟として支援してきました。スタッフ交流、日本語OSCY、水泳やキャンプ活動など。その後、神戸YMCAは、他の台湾YMCAをも支援してきました。現在に至るまでこれらの活動を支援している水野氏に、感謝いたします。私たちは、このすばらしい関係がこの先も継続することを期待しています。2014年12月27日に高雄YMCA理事会が開催され、会長の林氏はじめ、全理事より今井氏、そしてそのご家族へ、祈りをささげました。あらためて、今井氏が、YMCAとして、そしてクリスチャンとして、幅広く貢献されてきたことに心より感謝いたします。神の祝福がありますように。



学童保育



浜脇育成センターは、2010年度から西宮市より委託を受けて神戸YMCAが運営している学童保育です。浜脇育成センターは3つの保育室があり、現在は131名の子どもたちが利用しています。育成センターは浜脇小学校の敷地内にあり、子どもたちは学校が終わると校外に出ることなくセンターへ帰ってきます。そして、学習、自由あそび、おやつの時間があり17時まで過ごします。希望者は19時までの延長保育もあります。通常はこのような形で保育をしています。特に今年度は地域の方と交わる時間を増やしていこうと、いくつかの交流行事を行いました。幸いなことに浜脇育成センターは、周りに児童館、保育園、公民館、老人ホームが隣接しています。特に児童館へは時間があれば遊びに行っていましたので、クリスマスの時期には児童館のクリスマス会に招待していただきました。また、老人ホームへはクリスマスや春休みに子どもたちが足を運び、コマやけん玉を披露したり歌を一緒に歌ったりして、入居されている方々と交わる時間をすることができています。このような交流を通じて、赤ちゃんから老人までの同じ地域に暮らしている人々がお互いに認識しあい、思いやりを持って生活できることを願っています。



東日本大震災支援活動 リフレッシュファミリープログラム

去る2月7日(土)に、神戸YMCA東日本大震災復興支援「リフレッシュファミリーデー」が行われました。寒い寒い冬空のもと、三田市香下の中農園にお邪魔し、羽東山へのハイキングと、収穫した大根のお味噌汁づくりを楽しみました。10家族、27名の参加者と、大学生と社会人からなるボランティアは、これまで共に歩んできた日々を思い出しながら、羽東山の山頂を目指し、ハイキングに出かけました。東日本大震災の復興支援として、関西に移住または避難して来られた家族のリフレッシュを目的とした本プログラムは、今回で10回目となり、これまでの参加者は150名を超えました。その内、半数以上は毎回のご参加です。ここで出会う仲間たちとの再会を喜び、また新たな仲間の仲間入りを喜んで、ボランティアの若人たちと共に歩んできた4年間でした。震災当時、小さかった子どもたちは大きくなり、親元を離れてハイキングを楽しんでいました。当時、まだ生まれていなかった命はこの世に生を受け、乳母車から降りて、自分の足で歩き出していました。当時、何もわからず、ただ一生懸命復興を願い走り続けた若者は今も堂々と、自分たちがすべきと思ったことを実行しています。



さて、このプログラムで何回もお世話になっている中農園の中さんは、優しく皆を受け入れてくれます。今回は羽東山を登るとのことで、厄よけの瓦をいただきました。「山頂に行って、下に向かって投げると、厄よけになる。きっといい景色が見えるから頑張ってください。」その言葉に励まされ、小さなお子さんからお父さんお母さん、多くの方が山頂を目指しました。一方、下に残った炊き出し部隊は、冬の寒さにしっかりと根をおろす大根を穫り、お味噌汁を作りました。中農園の美味しい大根を調理しながら、時より醤油をつけてつまみ食いをして、温かい30人分の味噌汁を作りました。下山してきた時の顔はみな輝いており、人の温かさを感じるお味噌汁が疲れた体を癒やしてくれました。プログラム終了後のアンケートで、今後期待することの欄に「これから30年は続けて欲しい」と書いてありました。私たちはこのプログラムを実施するたびに、多くの笑顔に出会い、喜びます。しかし同時に、いくつかの現実を突き付けられ、絶望し、悩みます。私たちは何をすべきか、それは未だにわからないままですが、ただ信じて続けること。そうすることで見えてくる未来もあるのだと感じています。これからもご支援とご協力をお願いいたします。(神戸YMCA 阪田 晃一)

幼稚園



「みんなでランニング」

神戸YMCAちとせ幼稚園では、今年も2学期後半より朝の体操をした後、年長組の子どもたちがランニングを始めました。これは、9月の運動会でリレーの楽しさを感じた子どもたちから、「もっと走りたい!」という声が上がったのがきっかけでした。初めはゆっくりのペースで約3分間走ることからはじまりました。可能な限り、ほぼ毎日走っています。3学期に入ると、年長組の姿をみていた年中組の子どもたちから「先生、ほくたちも走りたい!」「私にもできそう!」という声があがったのです。これまで、ほぼ毎日走ってきた年長さんに交じり、喜んで参加した年中組の子どもたちは「いける!いける!」という声や中には、「ちょっとしんどいわ…」という声も…、先生たちは、そんな子どもたちに、「ゆっくりでもいいよ」「先生も一緒に走るよ」など一緒に参加しながら、励ましたり応援したりして子どもたちを見守っています。そして、2歳児クラスのさくらんぼ組のお友だちや毎週水曜日には園庭開放に遊びに来ている未就園の小さなお友だちも、お兄さんやお姉さんが走っているのを見て、一緒に走りだす姿も見られています。小さなお友だちが増えて、年長組のお兄さんたちはというと…自分たちのペースで走りながら、小さいお友だちに当たらないように…気をつけながら走っています。お兄さんお姉さんのことを見て、真似る。これは何よりの学びだと思います。寒い季節でも寒さに負けず、今日も幼稚園の園庭には元気なパワーが溢れています。



保育園



「子ども・子育て支援新制度における 幼保連携型認定こども園へ」

神戸YMCAは、西宮市において、西宮YMCA保育園および西宮つとがわYMCA保育園を運営しており、神戸市西区にYMCA保育園、YMCA保育園おひさま分園、西神戸YMCA保育園が設置されています。そして、さらに2015年度4月には、あらたな施設、「神戸学園都市YMCAこども園」(定員60名)が開園されます。政府では、待機児童の解消、子育て支援の充実、質の高い教育・保育のための制度として「子ども・子育て支援新制度」が策定され、すべての保育園で新制度が実施されます。認可保育園の機能と認可幼稚園の機能を併せ持つ、唯一の類型である「幼保連携型認定こども園」に神戸市西区の「YMCA保育園」「YMCA保育園 おひさま分園」「西神戸YMCA保育園」そして、新たに設置します、「神戸学園都市YMCAこども園」が、先行して移行し、今まで以上に、子ども、家庭、地域とともに、幼い子どもたちの「いのちの根」を育てていきたいとおもいます。神様に愛され、神様に守られ、神様の願う地域社会をつくるために、共に仕えあう人を育成します。

感謝・寄付

震災ワイワイフォーラム会場
募金

福島の子ども招待キャンプへ

YMCA国際協力募金に園児のみなさんと取り組んでくださっている保育園を紹介します。ご協力、感謝いたします。

社会福祉法人 イエス团

神視保育園

社会福祉法人 神戸婦人同情会

青谷愛児園

社会福祉法人 聖ミカエル保育園

社会福祉法人 愛児会

あゆみ幼児園

社会福祉法人 頌栄会

頌栄保育園

社会福祉法人 頌栄会

社会福祉法人 光朝オリンピア

オリンピア都保育園



2月12日青谷愛児園のみなさんが来館くださいました。

スタッフ・オブ・ザ・イヤー2014表彰

今年度の「スタッフ・オブ・ザ・イヤー」の表彰が行なわれ、以下の方々が受賞されました。



大槻 靖子 さん (須磨センター・嘱託専任講師)
ウエルネスプログラムのスタッフとして幼児体育、Y B B、学童保育に献身され、Y B Bは会員数が1.5倍になりました。保護者、幼稚園教諭からの信頼も厚く、活動の推進役を果たされています。



本山 哲也 さん (西神戸ブランチ・主事職)
中堅ディレクターの核として幼少年活動の発展に貢献され、特に多人数の学童保育の運営、講師・スタッフ研修 (特にキリスト教理解)、弱体化していたリーダー数の拡大 (60名) に大きく寄与されました。



王 愛華 さん (カレッジ・準専任講師)
元北京YMCAスタッフから、自らも神戸YMCA日本語学校に通い研鑽された上で、現在、カレッジスタッフとして中国・台湾での募集活動を推進し成果を挙げています。また、学生対応も細やかで信頼を得ています。



大田 靖之 さん (ファミリーウエルネスセンター (FWC)・主事職)
三宮会館閉館に伴う作業、FWC開設に大きな貢献をされました。移転に伴う会員の不安を解消し、FWCにつなぎ、またFWCでは新規プログラムの提案、研修、実施なども多くの会員からも高評価を得ています。また、チャリティーラン、チャリティーゴルフなどにおいても会員活動を担ってくださいました。



木村 和子 さん (余島センター・嘱託職員)
客室清掃、厨房補助などを長年にわたり担当され、特に客室清掃は体力的にもハードですが、ホスピタリティあふれるサービスを心がけておられます。その言動は全職員の和を保ち、チームとして纏め上げる大きな一助となっています。

ソナタ 奏鳴曲 No.67

(最終回)



総主事 水野雄二

わが希望の根拠

私はこの3月末をもって37年間勤務した神戸YMCAを定年退職し、13年間務めた総主事を退任することになりました。

2002年、新世紀が幕を開けたものの混沌たる深い霧が世界を、日本を、そして神戸YMCAをも包み込んでいるような時、予期しない総主事拝命を受けました。驚きと不安の中で、ふと思いついたもの、それは私が神戸YMCAに入職した頃に亡き父が私にくれた一冊の本でした。本のカバーも失い、四方がセピアに変色した古い本で「わが希望の根拠」と題されていました。1949年、戦後の荒廃した日本に降り立った世界YMCAの指導者ジョン・R・モット博士が、打ちおれた日本の若者に対して講演を行なった記録を綴った本でした。

彼は戦後の悲惨な悲劇的な世界の状況を語りながら、しかし「今日ほど大きな希望を持ちうる時代もまたとない。」と語ります。「現代ほど苦しみが多い時代はない。それが第一の希望の根拠である。」というのです。なぜなら「人間の極限は神の機会であり、人間の能力の極めるところに神の働きたもうところが生じるのです。」と激励しました。

私は就任当時48歳。このモットの言葉に励まされて、総主事の仕事を始めたことを思い出します。そして、神戸YMCAでは選定しなかった「年間聖句」として「わたしの恵みはあなたに十分である。力は弱さの中でこそ十分に発揮される。」(コリント 二12:9)を選びました。思えば、私は力弱く、知恵足らない者であります。皆様のお支えの下、神が働いてくださって任務を全うできたことに厚く感謝するものです。

今も尚、多くの方々が困難、苦難、悲しみを抱えて生きておられることを知っています。そのような方々の上に、「希望の根拠」としての神の働きを切に願うものです。そして、それらの人と共に歩むYMCAの上にも。この間のご支援に心から感謝し、この拙文「奏鳴曲」もご愛読いただき、ありがとうございます。今後の神戸YMCAにご支援、ご声援くださいますように。

新会館建築募金 (感謝)

(前号掲載以降~1/31現在)

川上盾、山本常雄、小川健一郎、福井真佐代、森本米子、一宮花奈子、近藤森夫、中道基夫、阪口正浩、相浦和生、鈴木誠也、進藤啓介、島田信一、赤松敬子、石田英子、芦屋ワイズメンズクラブ、南谷祐子、大谷弘子、伊藤智美、竹林由佳、落合由香、饗庭具仁子、齋木基、神戸YMCAベルクワイアー(阿部望)、吉田明、黒田恭子、鈴木博和、鈴木光子、元津八千代、武田建、羽太英樹、加茂周治、神野敬子、藤井正雄、西神戸教会一教会員、混声合唱団くさぶえ・ディンドンリンガーズ、大谷節子、馬場一郎、熊谷親啓、ファミリー会 (代表-長井慎吾)、宗行孝之介、遠藤梧郎・宏子、安福芳之、美濃部多果子、岡本正、小野勅紘、田島康啓、大矢芳子、隅田保代、全国YMCAチャイルドケア担当者会、中田杉子、権藤みか (敬称略・順不同)

神戸YMCAランゲージセンター「日本語冬期集中コース」も今年で4回目を迎えました。今年度も旧正月(今年2月19日)前の2月2日から2月12日に実施。台中YMCAを通じて26名が参加してくれました。ほとんどが大学生で、一番上のクラスは全員が大学で日本語を専攻する学生たちです。「敬語は難しいです」と言いながら、丁寧な日本語で質問に答えてくれます。また日本語の勉強を始めたばかりの人たちは、「元気ですか」と聞くと、笑顔で「はい、元気です!」と答えてくれます。日本の文化・習慣に興味を持っている参加者のために、今年も神戸・京都・奈良・大阪のタウントリップを行いました。タウントリップには、通常の日本語会話を行いながら、多国籍の参加者には、通常の日本語会話をしながら、日本語を使って交流する」という体験をしました。

京都タウントリップでは京都光華女子大学を訪問。茶道やお茶を体験させていただきました。台湾でも「抹茶」味のケーキやアイスクリームは人気があるそうですが、実際にお茶を点てるのは初めてという人がほとんど。ボランティアとして参加した神戸YMCAの日本語学科で学ぶ台湾留學生の通訳を聞きながら、真剣な表情でお茶を点てていました。また今年もホストファミリーのご協力を得て、冬期集中コースの目玉であるホームビジットが実現しました。日本人の家庭を訪ね、共に夕食をとり、子どもたちと遊んだり、日本や台湾について話したり。様々な形で歓迎してくださるご家庭に、参加者の皆さんも私たち神戸YMCAのスタッフも感謝の気持ちでいっぱいです。心より御礼申し上げます。もう一つ、人気の高いプログラムが「和菓子作り体験」です。神戸滋慶学園神戸製菓専門学校にご協力いただき、先生のご指導の下、白いシェフキャップを被った参加者の皆さんが「練りきり・桜」を手作りしました。初めて作った和菓子は、先生が作られた繊細な「桜」とはちょっと違うけれど、皆さん大満足でした。

ランゲージセンターでは、冬期集中コースのほかにも、夏期集中コースでも「日本語を学びたい」「日本語を体験したい」という方々を受け入れています。こうした出会いや交流を通して、日本を知っていただき、互いに学び合えることが私たちの喜びです。



【2015年度日本語夏期集中】
7月6日~31日 ホストファミリー募集
神戸YMCA国際・奉仕センター
TEL: 078-241-7204

(神戸YMCAランゲージセンター 三井敬子)

ファミリーウエルネスセンター ☎078 (241) 7202
 YMCAホームヘルパーの事務所 ☎078 (241) 7237
 ランゲージセンター ☎078 (241) 7204
 専門学校 ☎078 (241) 7203
 西宮YMCA ☎0798 (35) 5987
 三田YMCA ☎079 (559) 0075
 余島野外活動センター ☎0879 (62) 2241
 デイキャンプ&コミュニティサービス(兼キャンプ事務局) ☎078 (241) 7216
 国際・奉仕センター ☎078 (241) 7204
 ウエルネスセンター学園都市 ☎078 (793) 7401



西神戸YMCA ☎078 (793) 7402
 西神戸YMCA ☎078 (993) 1560
 須磨YMCA ☎078 (734) 0183
 YMCA保育園 ☎078 (794) 3901
 西宮YMCA保育園 ☎0798 (35) 5992
 西神戸YMCA保育園 ☎078 (792) 1011
 YMCAちとせ幼稚園 ☎078 (732) 3542
 西神戸YMCA幼稚園 ☎078 (997) 7705
 西宮つとがわYMCA保育園 ☎0798 (26) 1016

卒業リーダー感謝

今年も学生時代の貴重な時間と力をささげ、YMCA活動の担い手となってくださったボランティアリーダーの皆さんが巣立っていきます。リーダーのご奉仕に心から感謝するとともに、奉仕活動を通して彼らが得たものが、これからの糧になることを願っています。

- | | | | | | | | |
|-------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 秋原優樹 | 岡田真帆 | 河村 早紀子 | 根本 紗璃依 | 荒川 俊太郎 | 染谷 早紀 | 小井塚 美里 | 山野井 瞳 |
| 木之下博樹 | 竹部聡美 | 桑原 彩香 | 信田 早紀 | 中塚 絢子 | 阪口 穂乃香 | 近藤 桃子 | 余田 奈緒 |
| 高畑貴幸 | 藤田美優 | 宿南 美穂 | 節田 香穂 | 酒井 洋貴 | 三好 萌 | 高岡 千晴 | 太田 香菜子 |
| 林陸 | 旭 友理 | 谷 彩加 | 森本 有美 | 奥田 貴彬 | 木戸 奈津希 | 船橋 秀暢 | |
| 藤澤勇磨 | 居上 真梨子 | 谷 沙椰香 | 宮本 秀和 | 今西 彩佳 | 井内 伸 | 梶田 小百合 | |
| 堀陽平 | 受野口 笑子 | 中澤 茉友子 | 吉田 光希 | 荻野 翼 | 石塚 尚子 | 丸谷 健輔 | |
| 岩国彩希 | 大原 萌 | 中原 真梨那 | 林 徹哉 | 大屋 佳世 | 岡田 弘右 | 村上 雪乃 | |
| 畝原麻奈美 | 亀井 友理奈 | 西垣 嶺香 | 吉川 洋子 | 高田 晃子 | 上鶴 彩乃 | 山田 真維 | |

神戸YMCA ウィンタースキーキャンプ 2014-2015のご報告

12月26日より長野県白樺湖にて白樺スキーキャンプ(3泊4日:対象小学1年~4年)、そして長野県志賀高原横手山スキー場にて信州志賀高原スキーキャンプ(4泊5日:対象小学2年~高校3年)を実施しました。冬の大自然、大切な仲間、そしてチャレンジできる自分に出会い、大きくなったキャンプとなりました! 春休みには信州志賀高原春スキーキャンプ(3/26~30:対象小学1年~高校3年)を実施します。詳しくは、神戸YMCA キャンプウェブサイト。http://www.kobeymca.org/fuyuharu/



~阪神・淡路大震災20年~ 震災の体験・教訓・学びを 次世代に伝えるつどい事業

1月10日(土)神戸市勤労会館大ホールにて、「震災20年 K O B Eからのメッセージ: ボランティアの果たす役割」をテーマにパネルディスカッションが行われました。阪神・淡路大震災から学んだことを活かして地域で活動する神戸YMCA他3団体からの報告を受け、会場と意見を交え、最後に22世紀の未来へ向けてさらなる歩みを始めた一日となりました。(主催:震災の体験・教訓・学びを次世代に伝えるつどい実行委員会)



日本語 スピーチコンテスト 全国大会

1月22日(木)、東京の文化外国語専門学校で、第27回全国専門日本語学習外国人留学生日本語弁論大会が開かれ、神戸YMCA学院専門学校日本語学科からも1名が参加しました。惜しくも入賞は逃しましたが、練習してきた成果を十分に発揮したスピーチができました。



ファミリーウエルネス センターピックアップ

ファミリーウエルネスセンターが中央区協浜町に開館し、半年が経ちました。地域の人たちと共に新しいYMCAのコミュニティを創造するべく日々活動を行っております。年明けに新年もちつき大会を実施し、子どもから大人まで多くのメンバーの方がご参加くださいました。これからも地域の人たちと共によこびを分かちあっていきます。



神戸新聞と協働し、 募金活動を行っています

神戸新聞社と神戸新聞販売店会が協力し、神戸新聞の新規購読により、神戸YMCAに寄付金が届きます。専用ハガキで6ヶ月以上購読をお申込みいただくと、神戸新聞販売店会・神戸新聞社が寄付金の全額3,000円を負担されます。



★★ 個人消息 ★★

- 2014年12月31日付退職 中野卓磨兄 (ホームヘルパーの事務所)
- 2015年2月15日付退職 苗村美樹姉 (カレッジ)